東京大学東洋文化研究所
附属東洋学研究情報センター

平成２１年度事業報告

東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

設　立　平成 11 年４月１日
所在地　〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
電　話　03-5841-5839
FAX　03-5841-5898
URL　http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/

現状と課題（平成 21 年度）

はじめに

東洋学研究情報センター (Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略) は、東洋学文献センター（1966 年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成 11（1999） 年 4 月 1 日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野、比較文献資料学分野及び 2009 年度から増設されたアジア社会・情報分野に分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、アジア諸言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を、アジア社会・情報分野は、アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料を研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授 1・准教授 1、比較文献資料学分野担当の教授 1・准教授 2、アジア社会・情報分野担当の教授 1・准教授 2・助教 1 からなる。

また、上記の文献・造形資料学の研究に加えて、新たにアジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを平成 15 年度から開始した。こうした新事業の展開を通じて、研究所が行うアジア各地域・各分野に関する先端的な研究を支えるアジア資料学の構築に加え、アジア研究情報を収集・加工・発信する研究情報センターとしての機能がさらに強化され、また学界や社会に対して大きな貢献がなされることが期

待されている。

平成 15 年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施した。(個別のプロジェクトについては別表参照)

平成 21 年度は、各データベースにおいて追加入力等を行い、その成果をセンターのウェブサイト上で公開した。

成果普及活動としては、漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』と文献目録資料『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行した。また、全国文献・情報センター長会議等へ参加し、学内外の関係機関との交流を深めた。

Ａ　人員･施設

１．教職員

研究情報センター長	教授	羽田　正
研究情報センター	教授	丘山　新
	教授	桝屋　友子
	教授	園田　茂人
	准教授	板倉　聖哲
	准教授	名和　克郎
	准教授	廣田　輝直
	准教授	松田　康博
	准教授	スミス　ロジャー・デール
	助教	松田　訓典

２．施設

現在面積

教育・研究施設	・・・・・・６，５０２平方米
設備室等	・・・・・・　１１０平方米
計	・・・・・・６，６１２平方米

B　本年度実施状況

１．センタープロジェクト

研究情報の収集，資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを募集し，実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

試行プロジェクト……重点プロジェクトに移行することを目的として，試行的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

重点プロジェクト

1. 漢籍知識庫の構築（5 年計画 2 年目）／丘山　［文献］

◆全体計画

１）これまで構築してきた漢籍目録 DB と貴重漢籍画像 DB との２つの【漢籍資料庫】を統合し、さらに研究情報を付加することにより、より有用な【漢籍知識庫】へと格上げすることを目指す。

２）さらに漢籍に関する国際知識庫を構築するために、中国・台湾と共同研究する。

３）なお、貴重漢籍に引き続き、使用頻度が高いため、痛みが激しい漢籍の保存のため、それらのデジタル化を進める。

◆今年度の進捗状況

１）昨年度に引き続き、漢籍目録 DB を【資料庫】から【知識庫】へと格上げする試みとして、「四庫全書綜目提要」を付加する入力作業を進め、２２年度中にはデータベースとして付加する予定。

２）中国国家図書館（北京）との共同研究・共同利用に関する協定を結び、漢籍全文資料の公開部分を先方に提供し、中国での利用の利便性を高めた。

台湾国家図書館(台北)･中央研究院などとの国際漢籍知識庫の共同利用の実現に関しては、引き続き協議を継続している。

３）国際連携のため、緊急作業として、従来の漢籍目録の総点検を進め、問題箇所の修正作業を進めた。

◆具体的な成果物

貴重漢籍善本全文画像データベース　http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/

2.『エジプト新編地誌』データベースの拡充と改訂（1 年計画）／長澤　［文献］

◆全体計画

本プロジェクトは、かつてセンタープロジェクト「イスラーム地域文献資料データベース構築」（平成 14･15 年度）の成果として平成 16 年年 10 月に公開した「アリー･ムバーラク『エジプト新編地誌』データベース」の内容の拡充と改訂を図ることを目的とする。現行版は、『新編地誌』の中でカイロを扱った 6 巻のみを対象にしているが、改訂版では全 20 巻に増やし、とくに 10 巻分の村落編についてカイロと同じく目次を資料とした検索システムを配備する。

◆今年度の進捗状況

これまで科研費「アラビア文字圏近現代データベース形成の手法の研究」（基盤平成 13～14 年度）および以前のセンタープロジェクト「イスラーム地域文献資料データベース構築」（平成 14･15 年度）の成果において分析・整理・入力した蓄積データの内容を再点検することによって、「『エジプト新編地誌』データベース」の内容を増加し改訂を加えた。現行版の 1 巻から 6 巻までのカイロ編に加えて、アレクサンドリア、著名な村や町、そしてナイル川灌漑制度（ナイロ・メーターや主要運河）に関する 7 巻から 20 巻までのデータを掲載し、巻および頁による画像のダウンロードを可能にした。1 巻から 6 巻までのカイロ編と同様に、7 巻から 17 巻のアレクサンドリアと著名な町村について、行政区別（県･郡･町／村）、著名なイスラーム知識人の履歴などについて情報を検索できるシステムを加えた。町村名についてはアラビア語のアルファベット順の配列となっているのを行政区別に検索できるようにした。このため他の資料、たとえば人口センサスなどとのクロスチェックなどが容易になるなど、近代エジプト社会経済史分析のツールとして使いやすいデータベースへと内容を充実する改訂ができた。

◆具体的な成果物

エジプト新編地誌データベース

http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_Index.html

2010 年 3 月から改訂版を公開

http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_TOC.php

3. アジア美術画像アーカイヴ（第 2 期）（3 年計画 2 年目）／小川 ［造形］

◆全体計画

東アジア研究室では、この６０年来、世界の公私コレクションに所蔵される中国絵画の調査・撮影を実施し、写真資料の収集・公開に努めてきた。その結果、資料点数は無慮２０万点に及ぶ。これを中核として、東京国立博物館収集東南アジア彫刻スライド資料２万点や中国敦煌莫高窟の彫刻や壁画の戦前に撮影された貴重な写真２千５百点など、新たな資料を加え、科研費（基盤 A･基盤 S）とタイアップして、建築分野にもわたる調査・撮影旅行を実施し、総合的なアジア美術画像アーカイヴ構築に向けて、着実に前進しつつある。

◆今年度の進捗状況

２１年度は、上記基盤 S により、中国雲南省等における彫刻調査旅行を実施し、２０年度に行った同じく基盤 S によるヨーロッパ所在中国絵画調査旅行による画像資料を整理した。また、引き続き東南アジア彫刻スライド資料２万点の整理を継続して推進した。

それら３点の概要は以下のとおりである。第一に、今回の彫刻調査の調査対象は、香港・広州・昆明及び昆明近郊・大理・剣川など７都市・地域であり、香港では、香港歴史博物館・香港芸術館など４館の宋代木造菩薩坐像や明代の三彩如来坐像など１０点ほどの彫刻作品等の調査・撮影を行った。

広州では、広東省博物館･六榕寺など三館･二寺において、文房四宝や西漢越南王墓出土品、宋代の銅造六祖慧能像など、昆明及びその近郊では、雲南省博物館･安寧市･曹渓寺など二館･

一研究所・二寺において、大理時代の金銅仏や曹渓寺大雄宝殿後陣の宋代南海三聖像などの調査・撮影を行った。

大理では、大理市博物館や大理白族自治州博物館、崇聖寺や仏図寺など２館・３寺等で、玉局寺付近出土鉄造大黒天像や仏塔寺出土金銅製仏具、大理国時代の銅造如来立像など、崇聖寺では、出土文物展において大理国時代の金銅仏など、大理白族自治州博物館では、弘聖寺塔出土品などの調査・撮影を行った。また、剣川では、金華山において大理国時代の毘沙門天像、千狮山において大黒天像、石鐘山石窟（剣川石窟）においては、石鐘寺区の１号窟から８号窟、獅子関区の１号窟から５号窟の調査・撮影を行い、総計で、調査点数は、２７５点ほど、１６石窟に及ぶ。

第二に、ヨーロッパ調査で撮影した画像整理の対象館は、チェコ・スイス・オランダ・イギリス・ノルウェー・ドイツ６国のプラハ国立博物館附属ナープルストゥコヴォ博物館、大英博物館、西ノルウェー工芸美術館、ベルリン国立博物館東アジア美術館など、１３館、点数は、約８６０点である。

第三に、東南アジア彫刻スライド資料整理を行った対象は、インドネシア・タイ・スリランカ３国のジャカルタ国立博物館、バンコク国立博物館、コロンボ博物館などの１５館であり、点数は１２４３点に及ぶ。

◆具体的な成果物

収載点数約５千点の『中国絵画総合図録　三編』刊行のため、中国絵画の第３次調査で撮影したのは、ディジタル画像であり、保存用・予備用・公開用の３種類の CD もしくは DVD を作成し、スタンド・アローンの状態で、東アジア美術史研究室において公開の予定である。

ただし、従来のフィルム撮影による第１次・第２次調査のフィルムのディジタル化は、ディジタル化する機器が高価なため、１台で行っている状況であり、既刊の『中国絵画総合図録』『同　続編』を合わせると、作品収載点数が１万点ほどとなり、画巻や画冊なども勘案すると、４ｘ５インチの白黒フィルムにして１作品で約５枚、全体の概数は５万枚に及ぶので、全ディジタル化による公開は、経済的・時間的な問題により、近い将来に望むことは、到底、困難である。従って、公開は近い将来刊行の『中国絵画総合図録　三編』によることになろう。

なお、東南アジア彫刻スライド資料のディジタル化は、本年中に終了の見込みであり、上記、中国絵画の場合と同様に、公開の予定である。

4. 中国美術関係資料の収集・整理とデジタル化（3 年計画 2 年目）／板倉　［造形］

◆全体計画

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。全体を包括するアジア美術画像アーカイヴ・プロジェクトであるが、その中心をなす中国絵画のアーカイヴをより充実させるため、科研等で新たに収集した資料を加工・整理し、公開のための準備を行う。その上で、アジア諸地域における美術の様相をデータの構造から比較・検討していく。

◆今年度の進捗状況

中国絵画資料については、継続して写真のデジタル化を進め、第３次世界調査の成果を中心に新たに加わった資料整理を行った。また、本年度はデータベースに画像を添付する作業を開始、JM（日本機関所在部分）の一部を添付し、現状での問題を確認した。

さらに、「東アジア絵画史研究文献目録」については今年度分および未了部分を補い、全体のめどがついた。「江戸後期　中国絵画所在情報目録」については、研究所に所蔵される焼付写真に基づいて、「東京国立博物館所蔵　木挽町狩野による中国絵画模本目録」を２０１０年４月より公開する予定である。

◆具体的な成果物

WEB 上での公開

中国所在情報データベース（インフラ上で画像の一部）

東アジア絵画史研究文献目録

江戸後期　中国絵画所在情報目録（２０１０年４月より）

5. 東文研蔵アジア写真資料データベース（5 年計画 5 年目）／平勢　［造形］

◆全体計画

当研究所が戦前以来今日にいたるまで研究上の必要から収集してきたアジア関係の研究写真資料を集成し、インターネット等で公開しようとするもの。

◆今年度の進捗状況

すでに『東文研蔵アジア写真資料データベース』を立ち上げ、「インド史跡調査」・「山本賛七郎写真ガラス乾板データベース」・「清朝建築図様デジタルアーカイブ」・「関野貞収集中国碑碣卓方資料アーカイブ」・「植民地期ビルマの土地関係資料写真データベース」・「東アジアの亀趺」を公開している。今年度は、金文関係資料のデジタル化を進めた。

◆具体的な成果物

デジタル写真資料をＤＶＤとして保管するとともに、一部を試験的に内部で閲覧できるようにしている。

6. アジア・バロメーター（5 年計画 5 年目）／園田　［研究情報］

◆全体計画

2003 年度から実施してきたアジア・バロメーターのデータを整理し、一般の研究者の利用に供しやすい環境を作る。2008 年度は 2006 年度と 2007 年度に収集したデータの Web での公開を行うとともに、2008 年度に実施した調査のデータを利用した各種論文・報告書を執筆し、アジアを横断的に研究する知的潮流を作りだすことを目的としている。従来、「データの砂漠」と言われてきたアジアの現況を克服し、アジア研究者の「見えざる国境」を超える革新的なプロジェクトである。

◆今年度の進捗状況

本プロジェクトに関しては、イニシアチブを発揮してきた猪口孝名誉教授（新潟県立大学学長）が 2009 年度から科学研究費・基盤（A）「アジアの普通の人々の日常生活に関する大量

データの理論的実証的研究」（2009～2012 年度）をスタートさせ、従来蓄積されてきたデータを利用した研究成果の発信をメインにした取組みが始まったことから、2003 年度から 2008 年度までの間に蓄積されたデータの統一データセットの作成に特化した活動を行った。年度ごとに、質問の内容や選択肢の数、変数の定義などが微妙に異なるため、データ作成に従事した日本リサーチセンターの担当者と二度にわたる検討会を経て、3 月末までには統一データセットが完成する見込みである。このデータセットは、従来の各年度のデータベース様に Web 上で公開され、多くの人々の利用に供せられるようになるが、その前に、最終報告書の刊行を待たないといけない。

他方、上記の科研費を利用したワークショップは 2009 年 12 月 21 日・22 日に、中産階級をテーマにしたものと、2010 年 1 月 30 日に幸福をテーマにしたものと、二つ行い、海外からの参加者も含め、提出された論文をもとに活発な議論が行われた。すでに十本近い論文が集められ、現在、猪口孝・園田茂人監修による 5 巻本の「アジア・バロメーター叢書」の刊行を計画しており、出版社と交渉している最中である。

それ以外にも、以下のように、アジア・バロメーターのデータセットを利用した成果が個々の研究者によって出されている。

◆具体的な成果物

以下の論文がワークショップで提出され、今後シリーズ（2011 年刊行開始、勁草書房）に収録される予定である。

Shigeto Sonoda (University of Tokyo) “New Middle Classes in Asia: Myth and Reality”Ming-Chang Tsai （National Taipei University）“Middle Class and Global Exposure in Asia: A Multilevel Analysis Across 14 Countries ”

Akiko Kamogawa(Waseda University) “Education for Middle Classes in Southeast Asia”Seio Nakajima(University of Hawaii ）“Who Are the Asians? ： National, Transnational, and Local Identities Among the Middle Classes”

それ以外にも、以下のような査読つき論文が刊行されている。

Shigeto Sonoda, 2009, “Emergence of Homogeneous Social Class?: Commonalities and Differences of the New Middle Class in Globalizing East Asia“ *Journal of Contemporary Eastern As*ia, Vol.8, No.2, pp.1-14, Austrian Association of East Asian Studies

園田茂人，2009，「食文化の変化にみる東アジアのグローバル化：アジアバロメーターのデータ分析から』」『社会学評論』第 60 巻第 3 号，396～414 ページ

試行プロジェクト

7．19 世紀中国歴史写真集『震旦旧跡図彙』のデジタル化（1 年計画）／橋本　［文献］

◆全体計画

19 世紀末日本人営業写真師による北京城風俗・景観および雲崗石窟を写した写真集『震旦舊蹟圖彙』の復刻とＷＥＢ上デジタルアーカイブの制作・公開、長期保存措置を行う。当該写真集は世界的にも 19 世紀末北京城下及び雲崗石窟を写した写真としては最も古い記録の一

つである。特に雲崗石窟については、今日においても日中両国研究者が引用する水野清一・長廣敏雄による撮影よりも撮影時期が早いものであり、再び公開することは極めて重要である。

◆今年度の進捗状況

①写真集『震旦舊蹟圖彙』（写真 200 枚、図版 1 枚）本体の長期保存のための保存包材・間紙などの手当を方法を検討した。

②WEB 上で公開するためのデジタルアーカイブの設計中である。

③復刻出版するための、台湾の漢珍公司と交渉中。出版に関しては、漢珍公司が負担。デジタル資料の版権は東文研と漢珍が双方で持つということで、所内調整中である。なお解題執筆を選定中である。

◆具体的な成果物

8. 乾燥地の生態と文化との関係を感じるためのデータベース（3 年計画 2 年目）／安冨　　［文献］、［造形］、［研究情報］

◆全体計画

黄土高原・内モンゴル・南シベリアを対象として、乾燥地という厳しい条件下での生態系と人間社会との関係性を感じ取るための体験的データベースの構築を目指す。今年度は特に、南シベリアのトゥバ共和国のデータベース構築を中心として展開した。

◆今年度の進捗状況

南シベリアにあるトゥバ共和国は、ロシア、中国、モンゴルという三つの強力な勢力に挟まれ、常に少数者弱者として生き延びてきた社会である。にもかかわらずトゥバの人々は独自の言語・文化を維持発展させ、今日に至るまでその独自性を維持してきた。その社会の歴史の全体像を、生態系・環境・音楽・言語・民俗などを、統一的に理解するための総合的データベース構築を目指した。

これまで東洋文化研究所より刊行された 2 冊の Old Maps of Tuva をもとに、あらたにホームページ用に図を作成しなおし、一般の人にも利用しやすい形で学術成果の公開方法を考えている。現在までのところ、18 世紀から 20 世紀初頭までのトゥバの古地図の情報と、その領土変遷に関する部分のみ、ホームページ用に http 形式の資料を作成した。早期に、まずこれらを公表してゆきたい。

今後、地名の情報についても順次作成し、公開してゆきたいと考えている。

◆具体的な成果物

公開済（紙媒体のみ）

Todoriki, M. 2008 Old maps of Tuva 1—The detailed map of the nomadic grazing patterns of total area of the Tannu-Uriankhai—. The Research and Information Center for Asian Studies, The Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, Tokyo.

Todoriki, M. 2009 Old maps of Tuva 2—Tannu-Uriankhai maps in eighteenth century China—. The Research and Information Center for Asian Studies, The Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, Tokyo.

等々力政彦 2009「共生のダイナミクス―現場からみた進化についての小論文―」『東洋文化』89: 63-120.

Todoriki, M. 2009 (accepted): “Tuwa-Ren：an Emerging Ethnic Identity among Xinjiang Tuvans.” The DSCA Journal 2009：Danish Society for Central Asia's Electronic Yearbook.

等々力政彦 2009 (受理) 「トゥバの古地図が意味するもの―遊牧民の世界認識―」『東洋文化』90

等々力政彦 2010 「トゥバの弓奏楽器」小野田俊蔵・岡本康兒共編『―音のシンポジウム―鳴ります啼きます泣いてもいます~北東アジアの擦弦楽器~』pp 26-36, 佛教大学宗教文化ミュージアム.

公開予定

Old Maps of Tuva 地図データベース（URL）2010 年 7 月から順次公開

世界中にある、トゥバの古地図を、Old Maps of Tuva シリーズとして、データ化してゆく。

19 世紀のトゥバ語語彙資料の研究：2010 年より発表開始。

トゥバの民族音楽に関する語彙を歴史的なものも含めて網羅し、解説する。2011 年までに、発表予定。

9. アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト（5 年計画 5 年目）／鈴木　［文献］［研究情報］

◆全体計画

アジアについては、文字圏として文化圏を捉えれば、漢字圏・梵字圏・アラビア文字圏の３文字圏がその中心的部分を構成していると捉えうる。文字の共有は文明語・文化語の共有より生じ、文明語・文化語の共有は語彙の共有をもたらし、思想・認識に一定の共通枠組みを与える。このような観点から、本プロジェクトは、アジア３大文字圏中、まずとりあえずアラビア文字圏を取り上げ、アラビア文字圏における最も基本的な言語として、アラビア文字圏全体の文明語・文化語たるアラビア語、その北半における共通文明語・文化語として共有されるペルシア語、そしてイスラム世界最後の世界帝国的存在であったオスマン帝国の最重要言語であったオスマン語の３言語について、アラビア文字配列によるポリグロット・グロッサリーを作成することを計画し、その基礎作業として、上記３言語につき、各言語の語彙のアラビア文字入力作業を推進してきた。

◆今年度の進捗状況

５年にわたったプロジェクトにおいて、アラビア語・ペルシア語・オスマン語及びそれに関連してアルファベット表示のトルコ語につき、語彙のコンピュター入力作業を終え、その最終チェックも第一段階を終えることを得た。さらに、この３言語をアラビア文字配列するための予備的検討も実施した。釈義については、各言語について各々の言語についての最も古典的な辞書のテキストを、原典性を重んずるべく、原辞書の CD-ROM 版を作成し、各語彙について

の釈義部分をカット・アンド・ペーストの手法によって、アラビア文字配列することを計画しており、この点についても技法開発のために予備的検討を行ってきた。ただ、釈義部分の全面的配列には、時間切れのため到達し得なかったので、重点プロジェクトの形で完成を目指すこととなる。

◆具体的な成果物

なし

一般プロジェクト

10. データベース「世界と日本」（２年目）／田中 ［研究情報］

◆全体計画

Web ページ『世界と日本』において、近現代の日本ならびに国際関係に関する包括的なデータベース「データベース２０世紀・２１世紀年表」(2008 年 3 月現在 233962 項目)「日本政治・国際関係データベース」(2010 年 3 月現在 4410 文書）を作成し、公開するプロジェクトである。

平成２１年度は、首相・外相などの演説、国際会議関連文書、国際条約、その他外交関連文書などのデータを５８０件、２．８５MB を目標に作成し、公開する予定である。

◆今年度の進捗状況

計画どおり、国会内外における首相や外相などの演説、サミットや ASEAN などの国際会議関連文書、国際政治の基本文書や多数国間条約、日米関係や日中関係など各地域との外交関連文書などを作成し、今年度は新たに現在注目されている環境に対する重要文書をまとめた地球環境問題資料集のカテゴリーも掲載した。

今年度追加した文書においては、日本語だけでなく、英語文書や中国語文書（簡体字、繁体字）の作成にも力を入れた。日々の作業においては、各文書における正確な出典の確定や、表記の統一などについて様々な問題点が発生するが、これらは定期的にミーティングを行いながら解決してきた。特に表記の統一については、文書作成マニュアルを作成し、作成者が情報を共有できるように心がけた。また、ラクイラサミット関連文書、鳩山内閣関係文書、核密約文書など、タイムリーに必要とされる文書については、なるべく早く公開できるよう努力した。

当初の年間目標は、５８０件、２．８５MB であったが、今年度作成した文書も昨年同様に、条約などや長い演説が多いため、１件あたりのバイト数が大きく、年度末時点での最終的な実績は、３５９ファイル、４．０９MB となった。

◆具体的な成果物

作成したデータベースは、すべてデータベース『世界と日本』

http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/

で、公開される。

２．公開・発信

（ａ）ホームページの更新・運営

センターホームページ（http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/）の充実をはかり、平成 21 年度の事業報告及び漢籍整理長期研修の講師・課目・日程を追加した。また、研究情報の提供を目的とする「アジア研究情報 Gateway」和文サイトでは、書店ガイドの情報を更に増やすと共に、研究会情報の更新を行ってきた。

（ｂ）研究成果・データベースの公開

漢籍知識庫の構築では、昨年度に引き続き、漢籍目録 DB を【資料庫】から【知識庫】へと格上げする試みとして、「四庫全書綜目提要」を付加する入力作業を進め、２２年度中にはデータベースとして付加する予定である。

エジプト新編地誌データベースでは、2010 年 3 月から改定版を公開している。

アジア美術画像アーカイブ（第２期）では、収載点数約５千点の『中国絵画総合図録三編』刊行のため、中国絵画の第３次調査で撮影したのは、ディジタル画像であり、保存用・予備用・公開用の３種類の CD もしくは DVD を作成し、スタンド・アローンの状態で、東アジア美術史研究室において公開の予定である。

中国絵画所在情報データベースおよび東アジア絵画史研究文献目録では、データの収集・整理を行った。

東文研蔵アジア写真資料データベースでは、デジタル写真資料を DVD として保管するとともに、一部を試験的に内部で閲覧できるようにしている。

アジア・バロメーターでは、論文がワークショップで提出され、今後シリーズ（2011 年刊行開始、勁草書房）に収録される予定である。

１９世紀中国歴史写真集『震旦旧跡図彙』のデジタル化では、WEB 上で公開するためのデジタルアーカイブの設計中である

乾燥地の生態と文化との関係を感じるためのデータベースでは、東洋学研究情報センター叢刊第 9 輯『Old Maps of Tuva1』2008 年、第 10 輯『Old Maps of Tuva2』2009 年に刊行された。

アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクトでは、アラビア語・ペルシア語・オスマン語及びそれに関連してアルファベット表示のトルコ語につき、語彙のコンピュター入力作業を終え、その最終チェックも第一段階を終えた。

データベース「世界と日本」では、国会内外における首相や外相などの演説、サミットや ASEAN などの国際会議関連文書、国際政治の基本文書や多数国間条約、日米関係や日中関係など各地域との外交関連文書などを作成し、今年度は新たに現在注目されている環境に対する重要文書をまとめた地球環境問題資料集のカテゴリーも掲載した。

（ｃ）アジア・デジタル展示館

本研究所が所蔵する貴重書、写真、考古資料等のデジタル化と公開を継続中である。

（ｄ）出版

ニューズレター『明日の東洋学』は第 22～23 号を刊行し、全てのバックナンバーの PDF ファイルをホームページ上で配布している。東洋学研究情報センター叢刊は第 11 輯『伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第３巻（２)』及び第 12 輯『東京大学東洋文化研究所所蔵滝川勉文庫目録』を刊行した。

（ｅ）漢籍整理長期研修

平成 21 年度は 6 月 15 日～9 月 4 日に実施し、10 名が受講した（日程及び受講者名簿は 20~21 頁を参照されたい)。6 月 15 日～19 日の 1 週間は人文社会系研究科文化資源学専攻の授業を兼ねており、本学の学生 6 名が受講した。

３．平成 21 年度全国文献・情報センター長会議（第 45 回）

平成 22 年 1 月 29 日（金）に東京大学東洋文化研究所大会議室にて行った。平成 20 年度事業報告及び平成 21 年度事業経過について各センターから報告があり、その後、今後の連携について討議した。今後の連携のあり方については、同会議の開催を含め、意見交換を行った。

４．人文社会科学学術情報セミナーの開催

平成 22 年 1 月 29 日（金）に東京大学東洋文化研究所大会議室にて、４センターの事業報告を行った。

これまでのセンタープロジェクト一覧

	プロジェクト名／担当教員	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	主たる成果
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
1	現代中国書データベース／岡本	一般										国立情報学研究所にデータ提供。情報学研究所の公開開始までは当センターが同データベースを公開（現在は終了）。
2	東文研所蔵タイ語資料データベースの構築／池本					試行						データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_Index.html
3	インドネシアの更紗（バティック）図像データベース作成／関本						一般	一般	一般	一般		
4	『アジア・バロメーター』／猪口、田中、園田			重点	重点	重点	重点	重点	重点	重点	重点	ウェブサイトを公開。 https://www.asiabarometer.org/ja/index ・論文がワークショップで提出され、今後シリーズ（2011年刊行開始、勁草書房）に収録される予定である。
5	アジア研究情報ホームページ／丘山、小川				試行	重点	重点	重点				データベースを公開。 http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 恒常的な事業として継続
6	戦後日本政治・外交データベース／田中					一般						データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html※No.7に発展的に継続。
7	データベース20世紀・21世紀年表／田中						一般	一般	一般			データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html※No.8に発展的に継続。
8	データベース「世界と日本」／田中									一般	一般	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/
9	東アジア族譜データベース／宮嶌	重点	重点									データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~koreandb/zokufuindex.htm
10	在外日本企業作成資料のデータベース化／濱下		試行	重点	試行	試行						
11	仁井田コレクション北京文書の整理／黒田							一般	一般			資料のデジタル撮影完了。
12	江戸・明・古代プロジェクト／平勢		一般	一般	一般	一般	一般					データベースを公開。 http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/topmenu.html /
13	旧東方文化学院所蔵考古資料のデジタル化／平勢					試行	試行	一般	一般			センター叢刊6輯『東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録Ⅰ』
14	東文研蔵アジア写真資料データベース／平勢						重点	重点	重点	重点	重点	データベースを公開。 http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/takuhon/index.html http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/kihu/index.html

	プロジェクト名／担当教員	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	主たる成果
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
15	倉石文庫漢籍目録の作成とデータベース化／高見沢、丘山、尾崎	重点	重点	重点								東洋文化研究所漢籍目録データベースに収録して公開。http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html
16	東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース／大木	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般			データベースを公開。 http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html
17	東洋文化研究所図書室漢籍検索システムの編成／尾崎				一般	一般						http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.htmlに反映。
18	貴重漢籍の補修とデジタル化／丘山				重点	重点	重点					「東洋文化研究所所蔵漢籍善本全文影像資料庫」として公開。 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/※No.19に発展的に継続。
19	貴重漢籍の保存とデジタル化／丘山							重点	重点			データベースを公開。 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/※No.20に発展的に継続。
20	漢籍知識庫の構築／丘山									重点	重点	データベースを公開。 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/
21	東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化／尾崎	試行	試行	試行	試行							データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmgz.html※No.22に発展的に継続。
22	東文研所蔵中国雑誌データベースおよび中国近現代文学関係記事データベースのメンテナンス／尾崎					試行						データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/
23	中国絵画デジタルアーカイヴプロジェクト／板倉、小川	重点	重点	重点	重点							データベースを試験公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/※No.24に発展的に継続。
24	中国絵画資料の収集とデジタル化／板倉					重点						続編データをアップし公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp※No.25に発展的継続。
25	中国美術関係資料の収集とデジタル化／板倉						重点	重点	重点			データベースを公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/※No.26に発展的継続。
26	中国美術関係資料の収集・整理とデジタル化／板倉									重点	重点	データベースを公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/
27	アジア美術画像アーカイヴ／小川						重点	重点	重点			※No.28に発展的に継続。
28	アジア美術画像アーカイヴ（第２期）／小川									重点	重点	収載点数約５千点の『中国絵画総合図録三編』刊行のため、中国絵画の第３次調査で撮影したのは、ディジタル画像であり、保存用・予備用・公開用の３種類のCDもしくはDVDを作成し、スタンド・アローンの状態で、東アジア美術史研究室において公開の予定である。
29	Tibetan-Sanskrit構文対照電子辞書構築／鈴木（隆）	一般										Tibetan-Sanskrit構文対照電子辞書を公開（現在は作成者の所属機関＝山口大にサーバを設置）。 http://suzuki.ypu.jp/edic/
30	南アジアの言語の辞書のデジタル化／永ノ尾					試行						
31	インターネット公開のためのサンスクリット語及び中世ペルシャ語電子辞書作成プロジェクト／永ノ尾					試行	試行	試行	試行	試行		H18年に※No.29プロジェクトを継承。 http://suzuki.ypu.jp/edic/ http://texa.human.is.tohoku.ac.jp/aiba/demo/eDv/html/

	プロジェクト名／担当教員	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	主たる成果
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
32	東京大学附属図書館所蔵南アジア関係の写本のデジタル化／永ノ尾					試行	試行					サンスクリット語写本データベース http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp 2006年4月より公開。
33	ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料／永ノ尾					一般	一般	一般	一般			
34	英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデータベース化／高橋				試行	試行	試行	試行				データベースを公開。 http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hashi/index.html
35	内蒙古出土学術資料のデータベース化／後藤	重点	重点									データベースを所内限定公開。2003年横浜ユーラシア文化館、2004年古代オリエント博物館に資料を出陳。
36	インド・イスラム史跡データベース／中里、深見	重点	重点									データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml※No.37に発展的に継続。
37	イスラーム地域造形資料データベース構築／桝屋			試行	試行	試行						データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml※No.38に発展的に継続。
38	東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築／桝屋						重点	重点	重点			データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html
39	イスラーム美術作品画像アーカイヴ／桝屋						重点	重点	重点			※No.40に発展的に継続。
40	イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイヴ／桝屋									一般		データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html
41	イスラーム地域文献資料データベース構築／長澤			重点	重点							※No.42に発展的に継続。
42	西アジア近代史文献資料データベース構築／長澤					重点	重点					データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_Index.html
43	ダイバーコレクションのデータベース化／鎌田				試行	試行	試行	重点				データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html
44	アラビア文字圏ポリグロットグロサリー構築プロジェクト／鈴木						試行	試行	試行	試行	試行	
45	アジアのエリートと組織の比較研究の為のデータベース作成に向けての基礎作業／鈴木							一般	一般			

	プロジェクト名／担当教員	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	主たる成果
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
46	東洋文化研究所所蔵「荒木文書」のデジタル情報化／大田			重点	重点	重点						刊行物：東洋学研究情報センター叢刊第４輯『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史目録』2004年、『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』2005年。
47	中央アジアの伝統的な地域社会組織―マハッラ研究データベース構築／ダダバエフ					試行	一般					『東洋文化研究所紀要』第166冊100-149p.出版物：『マハッラの実像』
48	東アジアの共生観醸成に向けた黄砂研究データベースの構築									試行		黄砂Wiki 2009年４月から公開　(2008年３月から仮公開中) http://crec.org.cn/kosa/ ※黄土高原生態文化回復研究センターのサーバーにて運用中 ※No.49に発展的に継続。
49	乾燥地の生態と文化との関係を感じるためのデータベース										試行	刊行物：東洋学研究情報センター叢刊第9輯『Old Maps of Tuva1』2008年、第10輯『Old Maps of Tuva2』2009年。
50	『エジプト新編地誌』データベースの拡充と改訂										重点	データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_Index.html 2010年3月から改訂版を公開 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_TOC.php
51	１９世紀中国歴史写真集『震旦旧跡図彙』のデジタル化										重点	

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター叢刊既刊一覧

東洋学研究情報センター叢刊

第１輯　東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録　2002.
第２輯　東京大学東洋文化研究所所蔵夕嵐草堂文庫目録　2003.
第３輯　東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録　2004.
第４輯　東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録　2004.
第５輯　東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録　2005.
第６輯　東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録Ⅰ　2006.
第７輯　東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録　2007.
第８輯　伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第３巻（1）　2007.
第９輯　Old maps of Tuva 1　2008.
第10輯 Old maps of Tuva 2　2009
第11輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第３巻（2）　2009.
第12輯　東京大学東洋文化研究所所蔵滝川勉文庫目録　2010.

東洋学文献センター叢刊

第１輯　東洋文化研究所東洋学文献センター　新収図書目録（昭和41年度）1968.
第２輯　清代地方劇資料集（一）1968.
第３輯　清代地方劇資科集（二）1968.
第４輯　周揚著訳論文・周揚批判文献目録　1969.
第５輯　郁達夫資科　1969.
第６輯　東洋文化研究所東洋学文献センター　新収図書目録（昭和42・43年度）1970.
第７輯　朝鮮研究文献目録　単行書篇（上）1970.
第８輯　朝鮮研究文献目録　単行書篇（中）1970.
第９輯　朝鮮研究文献目録　単行書篇（下）1970.
第10輯 李大釗文献目録　1970.
第11輯 明刊元雑劇西廂記目録　1970.
第12輯 朝鮮研究文献目録　単行書篇・編著者名索引　1970.
第13輯 魯迅全集注釈索引　1971.
第14輯 1930年代中国文芸雑誌（一）1971.
第15輯 朝鮮研究文献目録　論文・記事篇（1）1972.
第16輯 朝鮮研究文献目録　論文・記事篇（2）1972.
第17輯 朝鮮研究文献目録　論文・記事篇（3）1972.
第18輯 郁達夫資科補篇（上）1973.
第19輯 切韻残巻諸本補正　1973.
第20輯 目録学　1973.
第21輯 花間集索引　1974.

第 22 輯 郁達夫資料補篇（下）1974.
第 23 輯 仁井田陞博士輯　北京工商ギルド資料集（一）1975.
第 24 輯 江西蘇区文学運動資料集　1976.
第 25 輯 仁井田陞博士輯　北京工商ギルド資料集（二）1976.
第 26 輯 民国以来人名字号別名索引　1977.
第 27 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（一）1978.
第 28 輯 仁井田陞博士輯　北京工商ギルド資料集（三）1978.
第 29 輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録　1978.
第 30 輯 仁井田陞博士輯　北京工商ギルド資料集（四）1979.
第 31 輯 儀礼疏攷正（上）1979.
第 32 輯 儀礼疏攷正（下）1979.
第 33 輯 仁井田陞博士輯　北京工商ギルド資料集（五）1980.
第 34 輯 小説月報（1920－1930）総目録　1980.
第 35 輯 コミンテルン定期刊行物　中国関係論説・記事索引　1981.
第 36 輯 魯迅文言語彙索引　1981.
第 37 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（二）1981.
第 38 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（三）1982.
第 39 輯 仁井田陞博士輯　北京工商ギルド資料集（六）1983.
第 40 輯 東洋文化研究所所蔵　中国土地文書目録・解説（上）1983.
第 41 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（四）1983.
第 42 輯 校合本　大越史記全書（上）1984.
第 43 輯 『植民地雑誌』(Koloniaal Tijdschrift) 所収論文目録　1984.
第 44 輯 校合本　大越史記全書（中）1985.
第 45 輯 江西蘇区紅色戯劇資料集　1985.
第 46 輯 宋之問詩索引　1985.
第 47 輯 校合本　大越史記全書（下）1986.
第 48 輯 東洋文化研究所所蔵　中国土地文書目録・解説（下）1986.
第 49 輯 許舒博士所輯　広東宗族契拠彙録（上）1987.
第 50 輯 沈佺期詩索引　1987.
第 51 輯 中華人民共和国・朝鮮民主主義人民共和国　職官歴任表　1987.
第 52 輯 韓国政治エリート研究資料　－職位と略歴－　1987.
第 53 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（五）1988.
第 54 輯 許舒博士所輯　広東宗族契拠彙録（下）1988.
第 55 輯 南嶽思大禅師立誓願文索引　－六朝隋唐宗教・思想資料－　1988.
第 56 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（六）1988.
第 57 輯 郁達夫資料総目録附年譜（上）1989.
第 58 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（七）1989.
第 59 輯 郁達夫資料総目録附年譜（下）1990.

第 60 輯 山西票号資料　書簡篇（一）1990.
第 61 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（八）1990.
第 62 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目（九）1991.
第 63 輯 自一九二七年至一九三七年　日本現存短期零本中国雑誌記事総目収載雑誌名索引 1992.
第 64 輯 許壽裳日記（自 1940 年 8 月 1 日至 1948 年 2 月 18 日）1993.
第 65 輯 許舒博士所蔵商業及土地契約文書　乾泰隆文書（1）1995.
別輯 1　東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録（書名・人名索引）
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録（書名・人名通検）
別輯 2　海外所在中国絵画目録（アメリカ・カナダ編）1977.
別輯 3　海外所在中国絵画目録（東南アジア・ヨーロッパ編）1981.
別輯 4　日本所在中国絵画目録（寺院編）1982.
別輯 5　LABRANG　李安宅の調査報告　1982.
別輯 6　日本所在中国絵画目録（博物館編）1982.
別輯 7　日本所在中国絵画目録（個人蒐集編）1983.
別輯 8　中国経済関係雑誌記事総目録（一）－『中外経済周刊』『経済半月刊』『工商半月刊』－　1983.
別輯 9　孟郊詩索引（上）1984.
別輯 10　孟郊詩索引（下）1984.
別輯 11　中国経済関係雑誌記事総目録（二）－『国際貿易導報』－　1985.
別輯 12　中国経済関係雑誌記事総目録（三）－『中行月刊』－　1985.
別輯 13　『内務行政雑誌』所収論文・記事目録　(A Catalogue of the Articles in Tijdshrift voor het Binnenlandsch Bestuur) 1985.
別輯 14　中国経済関係雑誌記事総目録（四）－『銀行週報』（上）－　1987.
別輯 15　春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧　－山西省出土文字資料－　1988.
別輯 16　中国経済関係雑誌記事総目録（五）－『銀行週報』（下）－　1989.
別輯 17　海外所在中国絵画目録　改訂増補版（ヨーロッパ編）1992.
別輯 18　海外所在中国絵画目録　改訂増補版（アメリカ・カナダ編　上　本文編）1994.
別輯 19　海外所在中国絵画目録　改訂増補版（アメリカ・カナダ編　下　索引編）1994.
別輯 20　『販書偶記』正続編合併刊行目録　1995.
別輯 21　海外所在中国絵画目録　改訂増補版（東アジア編）1997.
別輯 22　日本所在中国絵画目録　続編　1998.
別輯 23　天津史文献目録　1998.
別輯 24　東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録　1999.

大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection,　1988.
Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II,　1996.

平成21年度漢籍整理長期研修　日程・課目・講師

日　程	時 間	課　目		講　師	備　考
6月 15 日(月)	9:30～ 17:00	開講式(9:30～10:00) オリエンテーション 漢籍版本目録概説 (10:00～17:00)	 講義	羽 田　正 (東洋学研究情報センター長) 大 木　康 (東洋文化研究所教授)	
6 月 16 日(火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	井 波　陵 一 (京都大学教授)	
6 月 17 日(水)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 (1)	実習	陳　　捷 (国文学研究資料館准教授)	
6 月 18 日(木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 (2)	実習	陳　　捷 (国文学研究資料館准教授)	
6 月 19 日(金)	9:00～ 17:00	朝鮮本について	講義	藤 本　幸 夫 (麗澤大学教授)	
6 月 22 日 ～ 8 月 28 日		所属図書館所蔵漢籍整理及び研究	自習		
8 月 31 日(月)	9:00～ 17:00	慶應義塾大学 斯道文庫について (見学を含む)	講義	山 城　喜 憲 (慶應義塾大学教授)	慶應義塾大学 斯道文庫見学 を含む
9 月 1 日(火)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長 澤　孝 三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9 月 2 日(水)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの利用と構築	講義	安 岡　孝 一 (京都大学准教授)	
9 月 3 日(木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	篠原 宏、杉本 直行 (宮内庁書陵部)	
9 月 4 日(金)	9:00～ 16:30	漢籍整理実習 (3)	実習	大 木　康 (東洋文化研究所教授)	
	16:30～ 17:00	修了式		羽 田　正 (東洋学研究情報センター長)	

※都合により課目・講師等を変更することがあります。

平成２１年度漢籍整理長期研修研修員名簿

No	所　属　図　書　館　等	氏　　名
1	東京大学大学院人文社会系研究科 図書室	ふじわら　みか 藤原　美香
2	東京大学東洋文化研究所図書室	かざまき　みどり 風巻　みどり
3	東京大学東洋文化研究所図書室	すがはら　ひでこ 菅原　英子
4	筑波大学附属図書館	ふくしま　ゆうこ 福島　裕子
5	千葉県立西部図書館	わかもと　ともこ 若本　朋子
6	青山学院大学図書館	きしだ　まきこ 岸田　万紀子
7	駒澤大学図書館	すずき　しのぶ 鈴木　しのぶ
8	明治大学図書館	すずき　ひでこ 鈴木　秀子
9	岡山大学学術情報部情報管理課 （岡山大学附属図書館）	おおぞの　はやひこ 大園　隼彦
10	岡山県立図書館	こやま　あさこ 小山　麻子